

第17回寒地道路連続セミナー「吹雪研究の最近の話題」を開催しました

寒地道路研究グループ

寒地道路研究グループでは、寒地道路に関する様々な話題についての情報提供と意見交換の場として寒地道路連続セミナーを開催しています。さる平成18年7月12日、第17回寒地道路連続セミナー「吹雪研究の最近の話題」を開催しました（写真－1）。

セミナーでは、雪氷チーム松沢総括主任研究員の講演のほか、はるばる山形県や旭川市から吹雪分野の研究者をお招きし、最新の研究内容や動向についてご講演いただきました（表－1）。

講演では、はじめに当所松沢より「吹雪時の視程推定手法とその活用に関する研究」と題して、容易に入手できる気象データから吹雪時の視程を推定する手法の開発を行い、その手法を活用して広域の吹雪情報（視程情報）を提供するシステムの試行について報告を行いました。さらにこのシステムがドライバーに吹雪情報を提供し、冬期道路の安全性や安心感の向上に与える効果について報告しました。

続いて、防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所の根本征樹氏より「吹雪の数値シミュレーションに関する最近の話題」と題して、吹雪の数値シミュレーションに関する最近の研究例をご紹介いただきました。数値シミュレーションモデルは乱流拡散理論と個々の吹雪粒子の運動を計算する粒子運動理論を基礎とするものに大別され、現在吹雪現象で用いられているものは乱流拡散理論に基づくものが多いこと、基礎研究分野を中心に運動力学モデルの研究が進みつつあることなど、モデルの開発経緯や重要となるパラメータ、最近開発されたモデルの特徴などをご講演いただきました。（写真－2）

さらに、北海道立北方建築総合研究所の堤拓哉氏からは「吹雪の風洞実験の最近の話題」と題して、講演いただきました。その中では、風洞実験について吹雪による諸問題を検討するための有効な方法として国内外で広く実施されていること、様々な種類の模擬雪が使われていること、現地との相似則の確保が課題であること、実験方法の統一に向けた検討も始まりつつあることなどが述べられました。さらに同研究所の風洞装置を用いた実験例などもご紹介いただきました。

表－1 「吹雪研究の最近の話題」開催プログラム

講演「吹雪時の視程推定手法とその活用に関する研究」
雪氷チーム 総括主任研究員 松沢勝
講演「吹雪の数値シミュレーションに関する最近の話題」
防災科学技術研究所 研究員 根本征樹
講演「吹雪の風洞実験の最近の話題」
北海道立北方建築総合研究所 堤拓哉

当日は、北海道開発局や北海道庁など行政機関、コンサルタントなど民間企業の方などから、約60名の参加をいただき、予定時間を超過するほど活発な議論が交わされました。

今後の寒地道路連続セミナー開催予定は、随時寒地道路研究グループのホームページ（<http://www2.ceri.go.jp/>）に掲載しますので、参加をお待ちしております。

（文責：松島 哲郎）



写真－1 第17回寒地道路連続セミナー開催状況



写真－2 防災科学技術研究所 根本氏の講演状況